

期末テストを終えましたが、勉強の成果を十分に発揮することはできましたか。返却されたテストは十分に見直し、間違えた問題は「なぜ間違えたのか」を突きとめて、正しい答えを理解するようにしてください。これは受験勉強につながる勉強の基本です。

さて、今週の土曜日には高校生となって初めて全国の高校生と闘う「進研模試」が待っています。「期末が終わったばかりなのにまたテスト」という声が聞こえてきそうですが、模試は定期考査とは意味やねらいが少し異なるので、今号では模擬試験を受ける意味について紹介したいと思います。過去問を明日配布する予定ですので、これを読んだ後に、「さあやるぞ！」の意気込みで後で配布される過去問にチャレンジしてください。

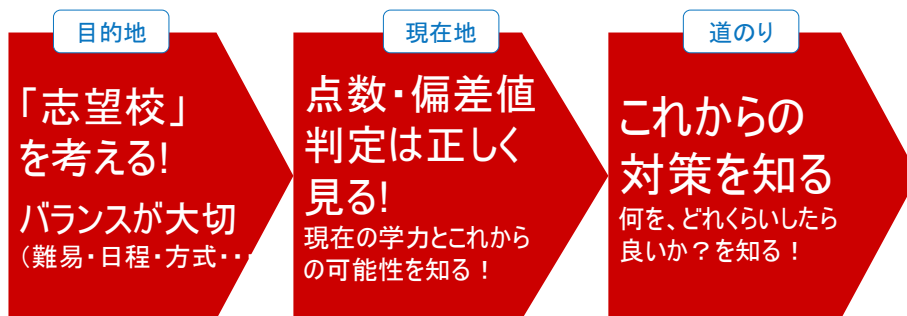
模擬試験はこう受けよう！

模擬試験を受験する意義は、「現在の自分の位置を知り、合格までに何がどのくらい足りないのかを知り、今後どうすべきかを考えるため」の材料として活用することです。

模擬試験を受ける意味

目的に行くためには、自分の位置と目標までの道のり(方法・方向)を知る必要がある！
自分の希望する未来に近づくための地図

||
模試



正しい模試の使い方

模試は最良の教科書であり、入試のシミュレーションにもなる。判定や偏差値などを気にするのではなく、正しく活用して学力の伸長につなげよう。

模試で実戦力を身につけよう

模試 = 練習試合

本番を想定して模試に臨むべし！

スポーツで練習試合をしないで公式試合に臨むなんてことが考えられないように、模試を受けずに入試に臨んではならない。1年生・2年生では偏差値や判定を気にするのではなく、実戦経験を積むことが大切だ。

裏面に模試を受けるメリットについて紹介したので読んでください。

模試を受けるメリット

- ・全国の受験生の中での自分の位置がわかる
- ・勉強の進み具合が確認できる
- ・弱点が発見できる
- ・問題の傾向がわかる
- ・答案用紙の作り方を学ぶことができる
- ・問題を解く順番やペースなどがわかる
- ・試験慣れすることで実力が出せるようになる

まとめ

模擬試験を受ける意味、それは『今』の実力を知ることです。『今』の実力と『目標とする』力にどのくらいの差があるのか、これを知るために受けるものです。よって、『一通り勉強が終わってから模試を受ける』では遅いのです。だから、模試は3年生になってから受けるのではなく、1年生から受けるのです。

先日のベネッセの進路講演会でも話があったように、平均点は40点前後ですから、まずは40点目指して過去問にチャレンジしてください。敵を知らずして試合に臨むことのないように、難しいと感じてもわからない問題が多くても最後まで解き終えてください。自己採点をしてどんな間違えをしたのかを確認すること。

模擬試験を受ける一番の理由は、『今の自分のレベルを知る』こと。

それによって、今後の勉強の道筋が見えてくるはず。

以下は2年生に向けての模擬試験の話ですが、1年生でも知っておくためになる話なので、紹介します。

模試はできるだけ早くから、できるだけたくさん受けるのが原則である。

「力がついてから」といって受験しないのは問題である。受験勉強をしているのは自分だけではない。他の人もやっているのだ。これは、合格判定がAまたはB判定が出るようになってから、という意味であろうが、いつまでたっても模試を受けずにいて、AやB判定がとれる自信がつかないなどと言うことはありえない。結局、何も受けずに本番を迎えてしまうことになりかねない。これは、単に自信のなさの表れであり、逃げの口実であるのだ。

模試は自分の客観的な力を把握するのに役に立つ。また、制限時間が2時間のモノを3時間で正解しても得点にはならないのである。「制限時間の中で、どうやって合格点を取るか」、これが合格に必要な得点力、つまり合格力なのである。模試での時間感覚の習得は絶対に必要なのだ。

また、試験までに模試という中間目標を作ることができ、やる気もプラスになる。

大学受験では、志望校の個別模試がある場合は必ず受験しておく。私立志望なら河合塾がいいだろうし、東進のセンター模試は比較的安い料金で受験できる。

ポイント

客観的な力の把握、時間感覚の習得、本番の緊張感の慣れ、模試の意義は大きい